

【別紙】

「本件申立てに至った経緯」

昭和53年9月、〇〇高等学校を中退し、株式会社△△にアルバイトとして勤務しておりました。その後、昭和56年12月、××株式会社に入社し、借金も無く、堅実に暮らしておりました。

昭和62年10月、□〇と結婚致しました。

① 最初の借り入れについて

昭和62年12月、会社の都合で二井住友カードを作成させられました。当分の間使用はしていなかったのですが、やはり手元にカードがあると便利な為、平成4年頃から入出金を繰り返すようになりました。

その後、平成5年に長男、平成7年には長女が誕生し、多少の借金はありましたが、順調な家庭生活を送っておりました。

② 債務が増えていった原因

平成11年10月、家電店に行った際、買い物をするのに便利だと店員に勧められ、セゾンカードを作成致しました。5万円のローンを組んで買い物をしておりましたが、収入の範囲で返済はできておりました。

平成11年12月、××株式会社を退職致しました。その後、平成12年5月に現在勤務する株式会社□□に入社するまでの5ヶ月間、退職金と失業保険で生活をしておりましたが、日に日にお金も底を突き、借り入れを増やしてしまいました。

平成16年、父が骨折をして入院をすることになりました。その後、退院したのですが、退院してすぐに胆管癌であることが判明し、再び入院を余儀なくされ、その入院費用の不足分を補うために入出金を繰り返すようになりました。

平成18年2月頃から私の体の具合がおかしくなり、病院で診察を受けたところ、頸部脊髄症と診断されました。日に日に手足が不自由に感じるようになり、11月に手術を受けました。手術後はなんとか生活はできるようになり、職場にも復帰することができました。

平成20年11月、私の病状が悪化し、入院を余儀なくされました。その為、入院の費用をアロムから10万円借り入れてしまいました。

平成21年3月、病状が安定せず、株式会社□□を退職致しました。その際に、退職金が100万円程ありましたが、借金の返済や生活費ですぐに底を突いてしまいました。

平成23年6月、借金が膨れ上がってしまい、このままでは自転車操業の繰り返しで社会に多大な迷惑がかかってしまうと思い、破産を申し立てる決意を致しました。このような結果に至ってしまったことを深く反省しております。

全ては、私の精神的な弱さと経済観念の無さからこの様な結果を招いてしまったと深く反省しております。

債権者の皆様には多大なご迷惑をお掛けして、本当に申し訳ないと思っておりますが、妻と協力をしながら、今後はもう二度と借金をしない堅実な生活をしていく覚悟でおりますので、人生の再生の機会を与えて頂きます様、何卒、よろしくお願い申し上げます。